



復興地（仙台宮城）の復興公営住宅等の被災者どうしのコミュニケーション向上のためのアートと食による被災住民参加型の復興支援事業に次世代の復興支援リーダーと伴走型で参加し、伝える活動を実施。

＜仙台あすと長町災害公営住宅住民参加交流型復興支援事業参加＞2016/4-2017/3

月1回全12回 被災住民参加者は各回平均30名



あすと長町災害公営住宅  
被災者支援WS  
パルコキノシタ、門脇、村上  
仙台長町 (2016.8.26)



あすと長町災害公営住宅  
被災者支援WS  
パルコキノシタ、門脇、村上  
仙台長町 (2016.8.26)



熊本益城町の仮設住宅での被災者どうしのコミュニケーション向上のためのアートと食による被災住民参加型の復興支援事業を熊本の次世代の復興支援リーダーと伴走型で参加し、伝える活動を実施。

＜熊本益城町仮設住宅住民参加交流型復興支援事業参加＞2016/12/28

パルコキノシタ、村上、熊本スタッフ、南阿蘇コーディネーター等 被災住民参加者は 40 名



アートによる復興支援活動のノウハウを使い石巻などに出張し被災者向けの伝える活動を実施。() (仙台七夕、NPO 祭り、熊本市現代美術館での伝える活動)





宮城熊本の復興支援をボランティアで行っている次世代の復興支援リーダーと伴走型で災害公営住宅や仮設住宅、被災エリアなどでの活動に参加し、宮城の復興支援活動のノウハウを伝える活動を実施。(宮城女川、石巻、仙台、熊本八代、南阿蘇、西原村、益城町)



復興支援リーダー育成事業 (村上)  
女川災害公営住宅 (2016.8.17)



復興支援リーダー育成事業 (村上)  
石巻石巻三日館 (2016.8.17)



復興支援リーダー育成事業 (村上)  
仙台東区上長町仮設住宅 (2016.8.17)



復興支援リーダー育成事業  
熊本支援センター (2017.2.2)



MMIX熊本ベースキャンプ  
復興支援リーダー育成 (村上)  
南阿蘇 (2017.2.2)

宮城の復興支援活動のノウハウを伝えるコンテンツを作成し宮城や東京、熊本等で伝える活動を実施。(被災者の聞き書から生まれたDVD、おしるこカフェのつくり方) (仙台七夕、NPO祭り、熊本市現代美術館での伝える活動)



平成28年(2016年)5月17日 火曜日 県内総合 14

# 故郷八代に支援の拠点

## ローカル ワイド

日本レスキュー協会の田中事務局長(左)から物資を受け取る村上タカシさん(中央)と松岡寛さん(右)

東日本大震災を体験した八代市出身の美術家や宮城教育大准教授の村上タカシさん(55)＝仙宮市＝が八代市廻りに、県外のボランティア団体などが地震の被災地支援に利用できる活動拠点を開設した。これまでの経験やネットワークを生かし「長期的な支援をしたい」と話している。

村上さんはアートによる街づくりを担う「MIMIXラクス・ラボ」代表。東日本

### 情報交換、宿泊の場に

大震災では物資支援や、津波が到達した地点に仮を建てたが、県として残すプロジェクトなどを進めている。

熊本地震の報に村上さんは、八代高の同級生で学習塾経営の松岡寛さん(51)と協力し、松岡さんの自宅兼元店舗に「MIMIXラクス・ラボの熊本ベースキャンプ」を設置。東北などから寄せられた食品や生活用品を各地の被災者に届け、支援活動で来訪した県外の団体などに、作業や宿泊の場として提供している。

災害救助大などを養成・派遣する「日本レスキュー協会」(兵庫県伊丹市)の田中事務局長(39)は「今後、仮設住宅などで被災者の心を癒やすセラピードッグに支援活動を考えてい」と松岡さんらと検討中。音楽家や、学生のボランティア保護などに取り組む団体(東京都)のメンバーも、活動の事前調査で利用した。

村上さんは「東日本大震災で、ボランティアが情報交換する拠点がなかったと実感した。アート分野で被災者の心のケアやまちの再生につながる支援にも取り組みたい」と話した。(平井輝子)

- 熊本総局 ☎096-061-3311
- 御船支局 ☎096-082-0220
- 大津支局 ☎096-293-2470
- 台志支局 ☎096-242-3100
- 玉名総局 ☎096-731-3078
- 山鹿支局 ☎0968-44-2433
- 菊池支局 ☎0960-25-2546
- 荒尾支局 ☎0968-83-0062

# 古里復興へ物資届ける

## 宮教大・村上准教授 八代に支援拠点

4月17日の前編から1カ月となった熊本地震で、宮教大准教授の美術家村上タカシさんが、出身地の熊本県八代市に支援拠点MMIXと、L.A.B.（Mix）ックス。ラが熊本県、L.A.B.（Mix）ックスを開設した村上さんは、東日本大震災でも被災地支援を再開、今回は地元の高級生の協力を得て物資の提供に奔走する。

「仙台から約1500キロ、熊本県では代表を務める芸術やつと書いた。八代市の文化活動法人「MMIXとL.A.B.（Mix）ックス」に17日、車で到着。ABTを通じ、被災したお母さん村上さんがほつとした市なりかに物資を届けた。当時、愛情をこめて、自宅を前庭の経験から「災害の初期段階に提供した高校時代の同級生は、活動拠点が必要だと判断。主任助教さん白が支願で出 地難速すくに被災者さんに連絡

### 同級生が協力 自宅提供

迎えた。宮教大准教授のL.A.B.（Mix）ックス、サンマの活動拠点「L.A.B.（Mix）ックス」の支援物資を運んだ車は、部の文芸部から提供された。今度、熊本県の物資の配給に役立つ。村上さんは熊本地震発生時、仙台市にいた。「熊本は過去に大きな地震がなかったため、たまたまではないと感じた」と振り返る。

### 指定外避難所などサポート

は指定外の避難所や避難者が少ない施設に行政の支援が偏らないという課題があった。「そういう所は、支援が支障すべき」と思う。

被災が比較的小さかった八代市を拠点に、宇土、宇城両市などの小規模な避難所や高齢者介護施設などに物資を配る。松岡さんが必要な物資などの情報を集め、村上さんが



熊本ベースキャンプで、支援物資を確認する村上さん（右）と松岡さん

（報道部・島山廣）